

# 今年度の飼料作物種子動向

## 種苗部

昨年の酪農畜産業界においては、4月に宮崎での口蹄疫発生という激震が走りました。気象面では春先の低温と日照不足、夏には記録的な猛暑、秋には急激な温度低下など農業全体に大きな打撃となりました。さらに農政面では、草地整備事業に関わる公共事業予算が半減される等、産業界を取り巻く環境は益々厳しいものとなりました。海外では、トウモロコシ相場が急騰し一時売買が成立しない場面に陥るなど、安定的飼料の確保の困難さが、浮彫りになりました。

弊社では、会社創立以来「健土建民」の精神に則り、一貫して良質の飼料作物品種の開発に邁進し、自給飼料の普及拡大に努め、足腰の強い酪農業の発展に尽力してまいりました。また、本年4月には、日本ミルクコミュニティと雪印乳業は雪印メグミルクに吸収合併され、雪印グループに大きな変革がなされます。その一員として生産者の皆様の近くで事業を展開し、グループの一翼を担う弊社の役割と責務は益々重要となります。

異常気象や天候不順は世界規模で繰り返されております。厳しい環境の中で日本の酪農業に貢献すべく、良質な飼料作物種子を安定的に生産しお届けするのは弊社の重要な役割であります。

品種にあった採種適地の開拓、栽培技術の向上、生産圃場管理の徹底、生産効率の向上、精選技術の改善など種子開発生産会社として求められる課題に日々努めており、牧草種子の主生産地であるアメリカでは2000年に雪印種苗アメリカ(株)をオレゴン州に創設、以来10年余、生産現場と密接な繋がりを持ちながら活動しております。

以下に主な作物の需給状況をお知らせ致します。

### チモシー

主生産地のアイダホ州とカナダでは、生育期間中は低温湿潤傾向で経過し、生育遅れによる収穫作業の遅延はありましたが、生産量はほぼ平年作となりました。弊社のラインアップ、ホライズン・ホクエイ・シリウ

スは十分な供給が可能です。



写真1：ホライズン採種圃場 アメリカ アイダホ州

### オーチャードグラス

EUや南米での生産もありますが、現在はオレゴン州を中心に生産しております。他の草種に比べ栽培に手間が掛かり、特に晩生種は採種が難しい為種子生産地では敬遠されがちな草種です。弊社では肥培管理や圃場管理を徹底し、安定生産を図りました。晩生品種バツカスの生産も軌道に乗りました。



写真2：種子生産農家の精選設備

### イタリアンライグラス

道内では馴染みの薄い草種ですが、府県ではロールペールサイレージ用として広く利用されています。オレゴン州では世界のイタリアンライグラスの80%程の種子が生産されていると言われております。弊社も殆どの品種を生産しております。昨年は、開花期の降雨の影響により品種毎でばらつきはありますが概ね平年作となりました。北海道では地下茎型イネ科雑草の抑制効果で注目を頂いているマンモスBは春播き性が高く、再生力も優れた品種です。

### アルファルファ

EUやカリフォルニア州での生産もありますが、ワシントン州での生産が主体となります。灌水施設が整った圃場での生産となり、受粉期の条件が良ければ（蜂が十分に活動出来れば）比較的安定的に生産され、ケレスも安定した生産となっております。引き続きご愛顧の程お願い申し上げます。



写真3：ケレス採種圃場 アメリカ ワシントン州  
※水色の小屋は交配用の蜂の巣箱

### トウモロコシ

言うまでも無く自給飼料サイレージには無くしてはな

らない作物です。牧草品種と共に弊社も育種開発を重点的に進めてまいりました。耐病性や消化性等、多岐にわたる市場の要求にお応えする為これからもラインアップの強化を目指してまいります。種子生産はフランスを中心とするEUです。本年は播種期の低温湿潤傾向により播種作業が全般に遅れ、生育も遅延しましたが、生育後半には高温傾向となり、種子生産も回復を見せました。一部の品種では春の低温による障害で採種量が限られているものがありますが、種子は概ね安定した供給となっております。



写真4：アシル採種圃場 フランス

地域にあった品種をお勧めする為、新しい系統もご用意致しておりますので、是非お役立て下さい。

### おわりに

自給飼料の増産、草地更新による生産性の向上は弊社企業理念である「健土建民」に適うものであり、皆様の経営の一助となるべく不断の努力をしております。皆々様におかれましては、あらゆる困難を乗り越え、前進の一年となります事を心よりご祈念申し上げます。